

手作りのあたたかいお料理で
心を込めておもてなしします!

おかんの台所



あたたかい「おかんの手料理」
に心までポカポカ

来店したら必ず食べたい
人気メニュー!

- ①もつ煮(塩味)
柚子胡椒のきいた大人の味わい
- ②スパム玉子
トロトロの半熟玉子が本場沖縄流
- ③鶏肉の手作りラー油焼き
ラー油だけでもお酒のつまみに



◀明るく清潔感あふれる
店内は居心地も抜群



【おかんの台所】
本町17-2 岡田ビル1F
☎090-1406-3835
営業時間/16:00~23:00
定休日/日曜日

おかんの台所からのお知らせ!

12月7日(水)まで、ご来店の方にもれなくグラスビールを1杯プレゼントします。注文時に「広報わこうを見た」とお伝えください!



▲日本各地より取り寄せたカップ酒がズラリ!



▲ラー油からきんぴらに至るまでほとんどが手作り



コロナ禍に負けることなく、元気に明るく頑張る和光市の商店や事業所。今回は、心のこもった手料理と日本各地のご当地カップ酒が多くのお客様を虜にする「おかんの台所」のご紹介です。

和光市にバーが珍しかった1978年から、和光市駅南口で『バー・サンシャイン(ラスティパル6F)』を経営してきた店主の郷 みどりさん。2009年にこちらのお店をオープンしたきっかけを、このように振り返ります。

「深夜までお店に立つのが大変になってきたころ、バーはスタッフにお任せして新しいお店を始めようと思ったんです。家族から“お母さんは料理が得意だから家庭料理でもてなしたら?”とアドバイスをもらい、台所のぬくもりを感じていただけるようなお店を目指しました」。

店名がそのままお店のコンセプト。こだわったのは、手作りの料理をできたのうちに提供すること。「焼き物、揚げ物はもちろん、きんぴらなど一般的には作り置き料理も、ご注文をいただいてから調理しています」と郷さん。ポテサラ、ぬか漬けといったスピードメニューも充実しているので、テーブルに料理が何もなくて持ち無沙汰…にならないのもうれしいポイントです。

そして、料理の美味しさと並ぶ人気の秘密が数十種類におよぶカップ酒。もともとは「一人でお店を切り盛りしているので、なるべく手間をかけないために」と始めたものの、それだけではつまらないと日本各地からご当地のカップ酒を集めるように。今ではお店の名物となり、記念に空いたカップを持ち帰るお客様も多いといいます。「ラベルもおしゃれですし、飲み切るのにちょうどいいサイズなので若い女性にも人気なんです」とのこと。

最後に、和光市民の皆さんにこんなメッセージをいただきました。「季節に応じてメニュー表にない料理もご用意しています。これからの季節は心も体もポカポカになるようなメニューを予定していますので、ぜひご期待ください。おかんの味が恋しくなったら、ぜひ当店へ。ご来店をお待ちしています!」。

次回は、
こだわりのイタリアンとワインが楽しめる
『Acatui』です!

今回の取材の様子を
動画で公開します。
ぜひご覧ください
(YouTube)▶



店主の郷 みどりさん

しばさき市長の 一歩前へ! 15

平和首長会議



「戦争」ということばは、多くの日本人にとって、過去の出来事に関連したものと認識していたように思います。今年2月に始まったウクライナとロシアの戦争で、私たちはその考えを覆されました。身近に起こり得るものである、と知り、改めて平和の意味を考えたのではないのでしょうか。

10月に広島で行われた「第10回平和首長会議総会」は、約8,200の加盟している国内外の都市から参加者が集まり、5年ぶりに対面で開催されました。国連事務総長のビデオメッセージや、元国連職員の講演、広島長崎両市長のパネルディスカッションなどのほか、学生ボランティアや核廃止運動家の学生からのお話もありました。原爆ドームの周りには、早朝からボランティアの市民が大勢います。原爆の被災地に暮らす方々の「伝えていきたい」という熱量は、いまだに大きいということを肌で感じました。

人間は、自分の体験していないことや、遠く離れた場所で起こっていることに対して、継続して関心を持つのは苦手なのかもしれません。来年には「平和都市宣言」を行う予定でおります。埼玉県和光市という場所で、私たちが「平和」という価値をどのように考え、伝えていけるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



特派員レポート

看板車は夢をのせて

まちの見聞特派員 金澤 里美

土手の桜並木を目指し、子供を乗せた自転車で柳寿司を北上する。目の前に広がるのは、ずらりと並んだ大物歌手の満開の笑顔のトラック。

「看板車」という言葉を耳にしたことはありますか? アーティストの宣伝写真でラッピングされた大型トラックのことで、舞台セットや音響設備、照明機材、楽器、衣装や会場で販売するグッズなどを運びます。アーティスト本人もデザインや写真選別に力を入れた、まさに走る看板です。好きなアーティストを応援する「推し活」という言葉がひろがりをみせる今日このごろ、看板車は推し活をするファンの思い出の一コマを飾ります。

物を運びながらファンの夢や喜びも運ぶ看板車は、ここ和光市からも出発しています。トラック前面の「WAKO」の文字がアーティストのブログに登場することもしばしばあり、コンサートツアーの大切なお供としての存在感は抜群です。一方、看板車の準備は忙しく、中でもアーティストの事務所からの看板画像データの到着がツアー初日の前日になり、それから印刷してラッピングしたというエピソードはハラハラせずには聞けません。その綿密に組み込まれたスケジュールは、和光ト

ランспорт事務所内の大きなホワイトボードにびっしりと書かれていました。

トラック20台のスケジュール、運転手たちのスケジュールが書き込まれた3枚のホワイトボードが真っ白になったのは、今までに2回。東日本大震災直後と、新型コロナ拡大で自粛が続いた時です。もしも看板車の会社がなくなってしまったら…音楽ファンとして心配したのは筆者だけではないと思います。その危機を乗り越え、今年の夏から年末まではトラックが足りないほどということです。

新型コロナ流行以降のコンサートの観賞は歓声をあげることや一緒に歌うことは禁止され、拍手で応援するのが主流です。大好きなアーティストが舞台に登場した時にあげた歓声は、安全な日々の証かもしれません。全国各地のファンの拍手、そして黄色い歓声を浴びた機材を運ぶ日が、またいつかきますように。



株式会社和光トランスポート